

(様式 2)

議事録番号

提出 2013 年 1 月 28 日

## 会合議事録

研究会名：固体分光研究会

日 時：2013 年 1 月 14 日(月) 15:30-18:00

場 所：名古屋大学工学部 5 号館 2 階 521 講義室

出席者：曾田一雄(名大工), 木下豊彦(JASRI), 中村哲也(JASRI), 室隆桂之  
(JASRI), 藤原秀紀(阪大基礎工), 寺嶋健成(立命館大理工), 佐野  
圭祐(立命館大理工), 今田真(立命館大理工)

計 8 名

議題： BL25SU の改造計画について

ユーザーからの話題提供

SPring-8 II についての意見調査

議事内容：

1. はじめに 曾田一雄
2. BL25SU の改造計画について 中村哲也
  - ・ビームを 100 nm まで絞った high throughput ブランチを新設
  - ・既設ラインは振動を抑えるためにデッキから降ろして、ほぼ同性能で残る。
  - ・改造スケジュール：
    - 14 年 1-3 月にものを並べる
    - 4, 5 月でコミッショニング
    - 6 月から利用開始
3. BL25SU を用いた V203 の顕微角度分解光電子分光 藤原秀紀
4. SPring-8II について

代表者から SPring-8 II についての概要のレビューがなされ、その後、意見交換を行った。

個人的な意見として、

- 固体分光研究会として、意見分布を調査する必要がある。
- HAXPES で世界一の性能を追求して欲しい。  
つまり
  - 高分解能化 (50 meV をどれだけ切れるか)
  - high throughput
  - 従来の 8keV での測定に加え 15keV や 20keV といった高エネルギーでの測定もできるよう  
の両立を目指して欲しい。
- 軟 X 線領域では、顕微分光など、SPring-8 ならではの特徴を出した研究を行う必要がある。
- スペクトロスコープのためには、高 flux 化が重要課題である。
- 短バンチ化をすると、空間電荷効果のため光電子分光の分解能が悪くなる恐れがある。
- 高輝度化は、マイクロビーム化につながる点では結構である。
- 低エネルギー化 (6 GeV) についての議論：  
低エネルギー分光では問題はないなど。  
軟 X 線は 3 GeV 程度の高輝度光源が理想的。
- スペクトロスコープの立場からは、  
高 flux 化  
ピーク強度をできるだけ低減  
マイクロビーム化  
が理想的。つまり、低エミッタンスなフルフィル運転が理想。

との意見が出された。

5. その他 SPring-8 についての意見  
特になし。